

北海道北広島西高等学校 令和7年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- (1) 目指す生徒像の実現に向けて資質・能力の育成を図る。
 (2) 安心・安全の確保と学びの保障を両立させ、教育の質の維持・向上を図る。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ティーム・ティーチングでのベーシック・スタディの展開による「学び直し」の強化を図ることができた。 ○「学び合い」を活用した授業の波及、授業の相互参観から授業法の交流による、教員集団による主体的な授業改善を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒個々の実態に応じ、生徒を主人公にした学習指導の実践を期待する。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ベーシック・スタディを2学年でも開設し、学習の基盤作りを強化する。 ○授業の相互参観の進化と生徒の実態に応じた授業展開の構築により、生徒に対する個々に応じた「学びのデザイン」の構築を図る。 ○「総合的な探究の時間」の1単位増加により、探究的な活動の強化を図り、「育成を目指す資質・能力」の育成を深める。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○「生徒指導部だより」活用したプロアクティブな生徒指導の実践を図ることができた。 ○いじめの早期発見・早期解決に向けたいじめの積極的認知に取り組むとともに、いじめ防止に向けた取り組みを図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒にとって安心・安全な学校づくりと今日的な生徒指導の実践を期待する。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒による「目指す生徒像」への検討の強化から、主体的な校則の構築を図らせる。 ○日常的に生徒が悩みや困りごとをする場の設定を推進する。 ○「社会の有意な担い手」としての意識を醸成する教育活動の強化を図る。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間を見通した系統的なキャリア形成について機を捉えながら組織的に実践することができた。 ○キタニシプロジェクト（「総合的な活動の時間」）を活用した自ら進路を切り拓く意欲の醸成を図ることができた。 ○進路説明会など進路相談の場を多く設定することにより、主体的に取り組む意識の向上を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域を支える人材育成に向け、生徒に5年後、10年後の自身の姿を描かせた教育の推進に努めてもらいたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○進路における情報収集を強化し、進路実現に向けた相談活動の深化を図る。 ○キタニシプロジェクトとキャリア教育の関連づけを強化し、主体的に「自己の在り方生き方」を深める態度を育成する。 	
地域や保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会主催による「西の里次世代交流会」の企画と実施をとおして、地域課題の発見とその解決に向けた意識の向上を図ることができた。 ○地域の関係機関・事業所と連携した活動や地域貢献活動を通じて、地域の視点から学ぶ教育活動を展開することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○キタニシ生による地域の活性化を図るため、地域との関わりをさらに深化させた教育活動の展開を期待する。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携強化をさらに図るためコンソーシアム組織を設立する。 ○SNSの投稿を強化することにより、教育活動の魅力の広報を推進する。 	
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ○職員一人一人が「学校教育目標」の具現に向け、主体的に個々の資質・能力の強化に努めることができた。 ○「アクションプラン（第3期）」を受け、「働き方改革」に向け、職員への日常的な意識づけと働きがけを行うとともに、学校DXの推進を図ることができた。 ○不祥事防止に向け、機を捉えた働きがけを実践することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある教育活動の実践を強化し、中学生に選ばれる学校づくりに取り組んでもらいたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的な教育活動と「育成を目指す資質・能力」との関連付けの可視化を強化する。 ○学校DXの推進により、職員のウェル・ビーイングの向上を図り、本校の教育活動のクオリティの向上を図る。 ○「不祥事ゼロ」の実現を目指し、不祥事防止に向けた取り組みの深化を図る。 	
公表方法	学校ホームページへの掲載、PTA総会における説明	